

ダイフクPROFILE
2022

ダイフク
PROFILE
2022

会社概要	1
社是・経営理念	2
マテリアルハンドリングとは	3
沿革	4
中期経営計画「Value Transformation 2023」	14
6つの主要事業	17
主要製品	18
知的財産活動	26
業績推移(連結)	27
株式情報	32
サステナビリティ	34
情報開示	40
コーポレートガバナンス	41
役員一覧	43
グローバル展開	48
国内拠点・海外支店	49
海外現地法人	50
業界情報	52
日に新た館	53

※文中の金額：単位未満の端数を切り捨て
 ※文中のパーセンテージ：一部四捨五入し、合計が100%となるよう表記

事業	マテリアルハンドリングシステムの総合メーカー 物流ソリューションの提供など
商号	株式会社ダイフク(Daifuku Co., Ltd.)
設立	1937年5月20日
資本金	318億65百万円(2022年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 下代 博
従業員数	12,436人(グループ計/2021年度末)
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383) (「JPX日経インデックス400構成銘柄」に選定)
格付	発行体格付 A[安定的] 短期債格付 a-1 (格付投資情報センター(R&I))
2021年度業績	(2021年4月1日～2022年3月31日)
連結売上高	5,122億68百万円 海外売上高比率 65% サービス売上高比率 27%
営業利益	502億52百万円
年間配当金	1株当たり90円

トータルサポート体制

ダイフクの強みは、コンサルティング、システム構築から、製造、工事、長期安定稼働を支えるアフターサービス、リニューアルまで、トータルサポート体制を構築していることです。

マテリアルハンドリングシステムを構成する主要な製品を自社で開発、生産することにより、世界に広がるお客さまにご満足いただける最速・最良のソリューションを提供し、お客さまの競争優位性を押し上げています。



〈社是〉



Hini Arata

今日の「われ」は
 昨日の「われ」にあらず
 明日の「われ」は
 今日の「われ」にとどまるべからず

〈経営理念〉

モノを動かし、心を動かす。

ダイフクは、マテリアルハンドリングを核とする「モノを動かす技術」で、心豊かに生きられる社会を創造します。

私たちは、

- (1) 人と環境への負荷を最小化し、人権の尊重と責任あるものづくりを実践することで、持続可能な社会の実現に貢献します。
- (2) 世界のお客さまと誠実に向き合い、革新的技術と最適最良のソリューションでスマート・ロジスティクスを実現します。
- (3) 多様性を尊重する自由闊達な企業風土のもと、一人ひとりが変革に挑戦します。同時に、経営基盤を強化し透明性の高いグローバル経営を行います。

〈グループ行動規範〉

基本姿勢

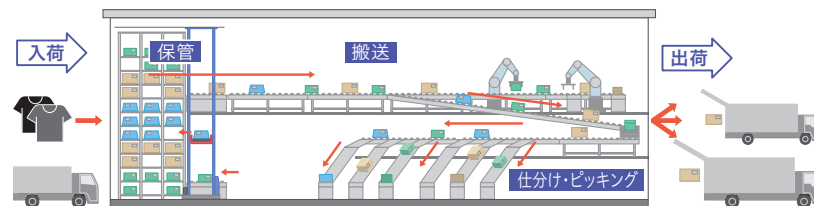
- ・私たちは、法令・社会規範や倫理に照らして、正しく行動します。
- ・私たちは、事業活動のあらゆる局面において、なによりも安全を優先します。
- ・私たちは、「日新」の気持ちを常に忘れず、たゆまぬ挑戦と変革を続けます。

マテリアルハンドリング(マテハン)とは、「モノを効率的に保管、搬送、仕分け・ピッキングする」ことです。それらの機能を持つ機械設備と、設備の動きを制御・管理するソフトウェアを組み合わせ、スムーズなモノの流れをつくる仕組み(自動化技術)を「マテハンシステム」と呼びます。

マテハンシステムを活用することで、重労働や反復作業を軽減でき、新たな価値を生み出すことができます。

ダイフクは、保管、搬送、仕分け・ピッキング用の主要製品を自社生産する世界有数のメーカーとして、またシステムインテグレーターとしてお客さまの多様なニーズにお応えしています。

配送センターのイメージ図



古代ギリシャ時代に発祥、機械学のベースとなる



動力を人力に頼っていた時代のマテハン
 (巨石の運搬)

出典: 運搬機械の前衛 ダイフク

人類にとって、重い荷物をどう運ぶかは永遠のテーマです。

人間が定住を始めて以降、長く人力や牛馬の力に頼っていましたが、古代ギリシャ時代に数学や力学が盛んになる中で、「重いモノを動かす学問」として機械学が発祥しました。マテハンが、機械工学の源となったわけです。

その後、産業革命を通して蒸気・電気などのエネルギーを得て道具が設備に発展、20世紀後半にはコンピュータと結びついてより進歩しました。

▶ 産業発展に貢献するダイフク(1)

事業環境	第2次世界大戦	焦土からの再建	乗用車生産本格化	高度成長期						
年	1937年	1939年	1944年	1947年	1957年	1963年	1964年	1965年	1966年	1968年
トピック	(株)坂口機械製作所として創業	御幣島工場(現大阪本社)を建設	総合商社の傘下入り、兼松機工(株)と改称	大福機工(株)に改称*	米国Webb社と技術提携					わが国初の自動倉庫
製品	鍛圧機械 起重機			港湾荷役運搬機器	チェンコンベヤ	ポウリングマシン	無人搬送車 メッシュボックスパレット	建屋一体型パレット自動倉庫 「ラックビルシステム」		[太字:現在も生産]
経営指針		1946年 契約は必ず守り、納期厳守。製品に責任を持ち、アフターサービスを充実させる。人材、特に技術者を集める。			ウェブコンベヤを担いで自動車と心中しよう		社は「日新」を制定			
提供価値					自動車の大量生産					電機、化学などの工場自動化
スローガン			荷役運搬機械武芸百般		マテハンの大福					無人への挑戦

※大阪と福知山に工場があったこと、中国語でめでたい言葉であることなどから命名。

▶ 創業

1937年5月20日、ダイフクの前身である株式会社坂口機械製作所を創業。主に圧延機、エアハンマー、製鉄用の鍛圧機械(写真右下)や各種起重機を製造していました。

1939年、主力の工場を大阪市西淀川区御幣島に建設しました(現大阪本社)。



1939年ごろの御幣島工場



鍛圧機械

▶ 社は「日新」

今日の「われ」は昨日の「われ」にあらず
明日の「われ」は今日の「われ」にとどまるべからず

社は「日新(ひにあらず)」は、ダイフクの開拓、開発意欲に燃える企業精神が表現されており、社員の心の支え、行動原理になっています。

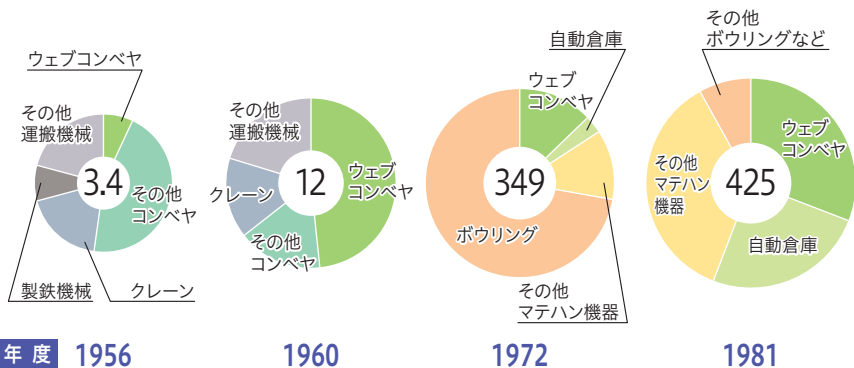
基になったのは、紀元前16世紀頃、中国最初の王朝・殷の創始者・湯王(とうおう)が自らを鼓舞した逸話です。湯王は、「苟日新、日日新、又日新」の言葉を洗面器に刻んで毎日三度唱えて自戒し、数百年続いた王朝の基礎を築きました。これは、「今日の行いは昨日よりも新しくよくなり、明日の行いは今日よりも新しくよくなるように修養に心がけねばならない」という意味です。

▶ 産業発展に貢献するダイフク(2)

事業環境	高度成長期 レジャーブーム		ボウリングブームの終えん	安定成長期へ	世界一の自動車生産国に	「ロボットがロボットを作る」			
年	1969年	1971年	1973年	1975年	1980年	1984年	1986年	1987年	1991年
トピック	ボウリングの利益でコンピュータや開発に積極投資		わが国初の冷凍自動倉庫	(株)コンテック設立 滋賀事業所の操業開始	初の現地法人を米国に	株式会社ダイフクに改称			
製品	オンライン制御自動倉庫 バッテリーフォークリフト	ユニット式パレット自動倉庫 (18ページ)	自動仕分け機 中・軽量棚 「テレリフト」(9ページ)	洗車機 (25ページ)	自動車工場用モノレール式搬送システム「ラムラン」 半導体生産ライン向け搬送・保管システム (22ページ)	デジタル表示式ピッキングシステム (19ページ) ケース自動倉庫 (18ページ)	チェンレス搬送システム (23ページ)	ローラコンベヤ [太字:現在も生産]	
経営指針	成長と充実		省力化は第3次産業でも必要である						
提供価値	消費生活レベル向上		スーパーや図書館の自動化		半導体工場の自動化				
スローガン	FA※のダイフク				Advanced FA※				

※FA: Factory Automation

▶ 事業ポートフォリオの革新(機種別売上高) (億円)



ダイフクは、第2次世界大戦後の混乱期、高度成長から安定成長への転換期で大きな試練を乗り越えてきました。

1957年、創業製品のクレーンや製鉄機械に見切りをつけ、1960年度には米国 Jervis B. Webb Company (Webb社)が開発したチェンコンベヤを中心とする体制を確立しました。Webb社は1919年創業で、米国のモータリゼーションを支えてきた老舗企業。後に当社グループの一員となります。

1972年度、ボウリングマシンが売上高の72%に達しました。ボウリングマシンは構造的にマテハンの応用で、コンベヤなどの受注品と異なり、計画生産品であることが経営上の魅力。ボウリングブームに乗って急成長しましたが、ブーム終息後は、本来のマテハンシステムに特化した事業活動に回帰しています。

▶ 産業発展に貢献するダイフク(3)

事業環境	アジア経済危機	インターネットの普及		グローバル化	リーマン・ショック		
年	1994年	1995年	1999年	2002年	2007年	2008年	2010年
トピック	日に新たな館オープン(53ページ) ISO 9001 認証始まる	韓国にCFI※を設立	滋賀・小牧事業所が ISO 14001 認証を取得		滋賀事業所を世界最大級のマテハン生産拠点に 米国Webb社を完全子会社化 世界の生産拠点で ISO 9001と14001を取得		
製品	小物高速自動仕分け機 世界初の非接触給電システム	自動搬送式納骨堂 (10ページ)	第5世代液晶パネル 搬送システム		自動車塗装システム 「E-DIP」	高能カケース自動倉庫 「DUOSYS」	農産物選果システム [太字:現在も生産]
経営指針	広く国内外に、最適・最良のマテリアルハンドリングシステム・機器および電子機器を提供し、産業界の発展に貢献する。		世界最適地生産 最適地調達		質、量ともに世界No.1のマテハン企業へ		
提供価値					環境にやさしい、安全で、安心な商品・システム		
スローガン	Logistics Navigator		IT革命・物流革命に 挑戦するダイフク		Material Handling and Beyond モノを動かす。心を動かす。		

※CFI: Clean Factomation, Inc.

▶ 時代のニーズに即した業種別売上高

(億円、()内は構成比)

年度	1996※	2005	2009	2013
業種	FAの高度化	液晶の普及	航空旅客の増大	eコマース本格化
自動車・自動車部品	257(20%)	542(27%)	237(15%)	589(24%)
エレクトロニクス	242(19%)	637(32%)	456(30%)	593(25%)
その他製造業	377(30%)	263(13%)	264(17%)	332(14%)
商業・小売	145(12%)	304(16%)	280(18%)	459(19%)
運輸・倉庫	94(7%)	141(7%)	92(6%)	84(3%)
空港	- (-)	- (-)	104(7%)	205(9%)
その他	156(12%)	98(5%)	106(7%)	153(6%)
合計	1,273	1,988	1,542	2,418

※1996年度のみ単体売上高

ダイフクは、ノウハウや技術を蓄積、ミックスし、新しい産業分野に応用することで、イノベーションを継続しています。

1980年代、半導体工場のクリーンルーム向け搬送システムの需要が急増。中核機種「天井走行モノレール(写真上)は、病院のカルテや検体、図書館の蔵書、空港の書類などの搬送に使われる「テレリフト」(写真下)を発展させたものです。

2000年代には、液晶パネル工場向けのシステムを、また2007年には、M&Aで空港向けシステムを加えました。

近年は、商業・小売や運輸・倉庫分野の売上高が年々拡大。コンビニエンスストア、総合スーパー、医薬卸、百円ショップ、eコマースなど、幅広い流通形態に合ったシステムを開発しています。



▶ 産業発展に貢献するダイフク(4)

事業環境	東日本大震災	中国のGDPが世界2位に	新興国生活水準の向上	ネット通販の普及		
年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
トピック	北米事業統括会社(現DNAHC※)を設立		米国Wynright社を完全子会社化 滋賀県最大級メガソーラー完成	国連グローバルコンパクトに署名		
製品	世界最速の空港手荷物搬送システム(24ページ) 高能力デジタルピッキングシステム「eye-navi」	調剤監査支援システム(写真1) 半導体工場向け窒素パーージシステム 高能力ケース荷揃えシステム(18ページ)		エリア管理システム 高能力ケース自動倉庫「スマートストックカーアクトロ」 部品物流向け一時保管・仕分けシステム(23ページ)	電動フォークリフト向け非接触充電システム(写真2)	[太字:現在も生産]
経営指針	「5つの新しい」に挑戦(市場・製品・生産方法・グローバルパートナー・事業)	“オンリーワン”を生み出そう	安全はトッププライオリティ。安全文化を世界に広げる		真の世界No.1 マテハングローバル企業へ	
提供価値		お客さまの競争優位性を押し上げる				
スローガン	Always an Edge Ahead					

※DNAHC: Daifuku North America Holding Company

▶ 幅広い分野で活躍するマテハン

ダイフクは、これまでに培ったノウハウを活用し、世界の幅広い産業界にさまざまなマテハンシステム・機器を提供しています。

寺院・霊園

都市部の墓地不足を背景に、多様なモデルを開発・提供しています。



自動搬送式納骨堂

調剤薬局

画像認識と重量検品を組み合わせ、投薬ミスを防止します。



(写真1) 調剤監査支援システム「audit」

工事・物流現場

バッテリー駆動の電動車両への充電を非接触で行います。



(写真2) 電動フォークリフト向け非接触充電システム「D-PAD」

ダイフク公式チャンネル「D-Tube!」

当社公式のYouTubeチャンネルで、さまざまな製品や導入事例の動画をご覧いただけます。

(www.youtube.com/user/daifukuchannel)

▶ 産業発展に貢献するダイフク(5)

事業環境	物流現場の人手不足		新型コロナウイルス感染症拡大			
年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
トピック	資本金318億円に	ファーストリテイリング社と「戦略的グローバルパートナーシップ」締結	インドVega社を完全子会社化 空港事業向けソフトウェア関連企業2社を子会社化 TCFD提言への支持を表明		ドイツAFT社と業務提携	(株)コンテックを完全子会社化
製品	第10.5世代液晶生産ライン向けシステム「クリーンストッカー」	ドライブスルー型トラックステーション「TRTS(トータス)」			超高密度パレット自動倉庫(36ページ)	[太字:現在も生産]
経営指針			スピード感のある改革		グローバル競争力の強化	
提供価値	お客さまが求めるスマート・ロジスティクスの提供			持続可能な社会の実現に貢献		
スローガン	Automation that Inspires					

インドの物流システム企業を完全子会社化

2019年4月、インドのVega Conveyors and Automation Private Limited (Vega社)の全株式を取得。アジア・オセアニア市場での事業拡大を見据え、インドにおける製品開発力強化を目指します。



空港向けデジタル事業の強化に向けソフトウェア関連企業を子会社化

2019年8月、オランダのScarabee Aviation Group B.V.およびオーストリアのIntersystems (Asia Pacific) Pty Limitedを買収し、子会社化を発表。新たにスマートセキュリティレーンや統合情報システム分野に参入し、事業の多角化を図ります。



Scarabee社製 スマートセキュリティレーン

ドイツAFT Industries AGと業務提携

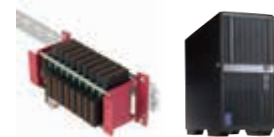
2020年12月、AFT社と業務提携契約を締結。AFT社が有する欧州での顧客基盤・技術・知見と、ダイフクのグローバルネットワークを活用し、世界各国の自動車メーカーへ積極的にアプローチします。



AFT社製 エレクトリックモノレールシステム

株式会社コンテックを完全子会社化

連結対象かつ、上場子会社であった株式会社コンテックを株式公開買い付け(TOB)で買収し、2022年5月6日に完全子会社化しました。コンテックとより一層連携を深め、ダイフクグループのさらなる企業価値向上を目指します。



計測制御用機器と産業用パソコン

▶「Value Transformation 2023」コンセプト

1. DX²による提供価値の変革

$$DX^2 (DXスクエア) = Digital Transformation \times Daifuku Transformation$$

DX(Digital Transformation)を推進するとともに、ダイフクグループ自身の変革(Daifuku Transformation)に取り組み、お客さまをはじめとするステークホルダーに対する提供価値を変革していきます。

2. ニューノーマル(新常态)下における新たな価値創造

前例にとらわれない柔軟で創造性豊かな発想力と既存の枠組みを変革していく実行力により、新たな価値創造が求められる社会において更なる飛躍を目指します。

3. 持続可能な社会への貢献

ESG(環境・社会・ガバナンス)やサステナビリティ(持続可能性)などへの取り組み推進の観点から、ダイフクグループでは、中期経営計画とサステナビリティアクションプランを経営戦略の両輪に位置づけ、それらの実行を通してSDGs(国連の持続可能な開発目標)の達成に貢献していきます。

「Value Transformation 2023」の概念図



▶経営目標

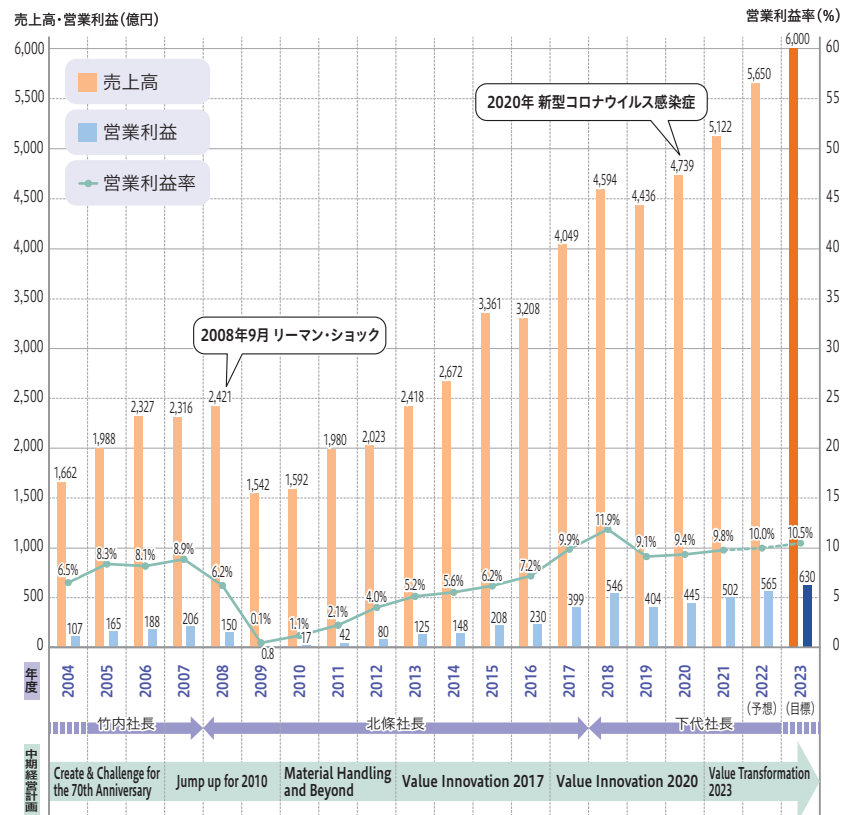
「Value Transformation 2023」の目標は以下のとおりです。

最終年度の目標	売上高	6,000億円(2022年5月修正後 [※])
	営業利益率	10.5%
	ROE	10%以上(各年度)

株主さまへの利益還元策としては、2021～2023年度の3カ年の平均で連結配当性向30%以上を目指します。

※昨今の事業環境の変化を踏まえ、最終年度(2024年3月期)の経営目標のうち連結売上高を、策定時(2021年2月)の5,400億円から6,000億円に修正しました。

▶売上高・営業利益の推移



▶ テーマと事業戦略

背景となる外的・内的環境

市場環境

- ・eコマースのグローバルでの拡大
- ・自動化ニーズの多様化

事業環境

- ・DXの進展
- ・新興競合企業の台頭

経営環境

- ・M&Aによる海外グループ会社の増加
- ・アナログ業務の見直しとデジタル化の加速

社会環境

- ・ステークホルダー・エンゲージメントの向上
- ・事業活動を通じた社会的責任の遂行

4つのテーマと事業戦略

事業領域

- 1 グローバル化の加速**
→グローバル市場への戦略的投資
- 2 既存事業の強化**
→次世代ビジネスモデルの創出
- 3 新規領域の創出**
→有望な新規領域への投資

収益性

- 1 製品力の強化**
→先端技術活用による提供価値の変革
- 2 生産性の向上**
→グローバルベースでの価格競争力の強化
- 3 生産体制の強化**
→デジタル化によるものづくり改革の推進

経営基盤

- 1 グループ経営の再構築**
→グループガバナンスの強化
- 2 業務運営の変革**
→顧客志向での業務の効率化・付加価値向上
- 3 人事制度の改革**
→多様な人財マネジメント制度の採用

ブランド

- 1 提供価値の変革**
→TOP※イノベーションでスマート・ロジスティクスを提供
- 2 社会価値の創出**
→社会インフラを担う企業として仕組みの強化
- 3 社員意識の変革**
→グローバルベースでの企業カルチャーの醸成

※TOP: Time, Occasion, Place

イントラロジスティクス

一般製造業・流通業向けシステム

eコマースを含む小売・卸、運輸・倉庫などの流通分野を柱に、食品、薬品・化学、機械など幅広い業種にまたがっています。アジア・北米への海外拡充を推進中です。

クリーンルーム

半導体・液晶生産ライン向けシステム

お客さまは、半導体と液晶業界です。売上高の約9割がアジア・北米など海外で、高度な技術が必要とされるため高いシェアを誇ります。

オートモーティブ

自動車生産ライン向けシステム

日系企業を中心に、米国、中国や韓国企業など世界の自動車メーカーに、プレス・溶接・塗装・組立・部品物流など、生産ラインの全域にわたって自動化システムを供給しています。

エアポート

空港向けシステム

空港建屋内に張り巡らす手荷物搬送ラインをはじめ、セルフ手荷物チェックインシステムやセキュリティシステム、空港内設備監視や制御など、幅広いソリューションを提供しています。

オートウォッシュ

洗車機・関連商品

主な製品は洗車機で、ガソリンスタンドやカーディーラー向けに節水、植物由来の液剤など、環境配慮型製品を提供しています。日本と韓国でトップシェアです。

電子機器

子会社のコンテックが、産業用パソコン、計測制御、ネットワーク関連製品、IoT関連システムなどを提供しています。デジタルサイネージ用コンピュータ、太陽光発電の計測・制御なども手掛けています。



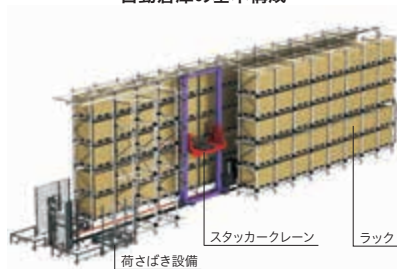
▶ イントラロジクス

一般製造業・流通業向けシステム

自動倉庫・荷揃えシステム

主要製品の自動倉庫は保管する製品の大きさ・重量によってパレット系、ケース系に分かれます。荷物の入出庫は、スタックークレーンにより行います。

自動倉庫の基本構成



ユニット式パレット自動倉庫
「コンパクトシステム」

自動倉庫導入のメリット

- ▶ 省人・省力化
- ▶ 在庫管理精度・出荷スピードの向上
- ▶ 保管スペースの有効活用
- ▶ 多様な環境に対応(冷凍・防爆)

近年、通販やeコマースなど流通業から高能力かつ複合的なシステムの需要が増加しています。「シャトルラックM (写真右下)」は、スタックークレーンに代わり、移動機能付き台車(シャトル)と昇降機(リフト)によって荷物の一時保管だけではなく、仕分け、順列出庫も行います。



ケース自動倉庫
「ファインストッカー」



高能力ケース荷揃えシステム
「シャトルラックM」

仕分け・ピッキングシステム

通販や卸などの物流センターでは自動化・省人化を実現する仕分け・ピッキングシステムが採用されています。

デジタル表示機による位置や数量の指示に従い、作業者が正確に商品を摘み取る方式(デジタルピッキングシステム)が多く採用されていますが、近年はロボットによるピッキングも増えています。ピッキングした商品は仕分けシステムにより店舗・方面別に自動で仕分けられます。



デジタル表示式デジタルピッキングシステム
「デジタルピックシステム」



高速自動仕分けシステム
「サーフィンソーター」

ラックシステム

棚の移動により、保管スペースを有効活用でき、固定棚に比べて約2倍の格納効果が得られます。貸倉庫にも設置可能なレールレス方式や冷凍・冷蔵用、重量物用、長尺物用など、豊富なバリエーションがあります。



重量級移動棚
「移動ラック」

物流ソリューションサイト(www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics)
業種別ソリューション、製品情報、導入プロセス、アフターサービスを分かりやすく紹介しています。

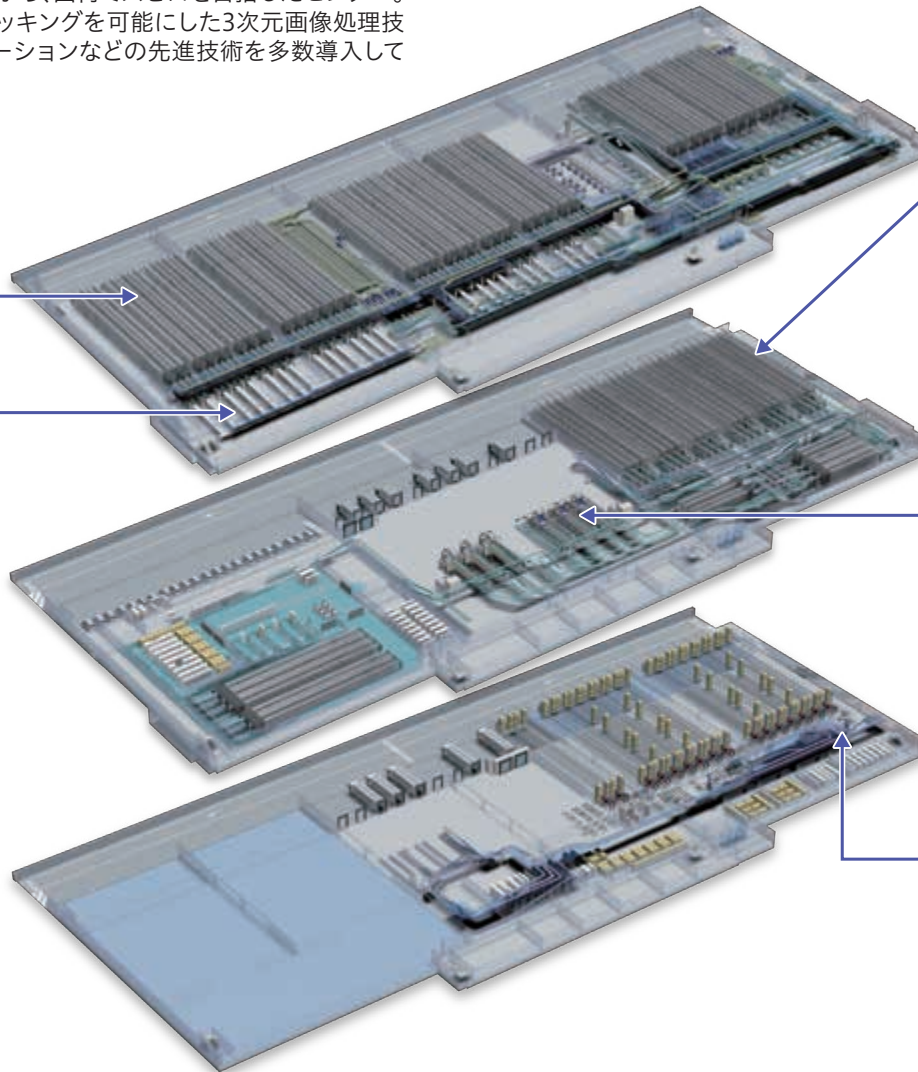
[納入事例]

先進技術を活用した最新物流センター

少子高齢化による労働力不足を見据えながら、出荷ミスゼロを目指したセンター。ロボットによる多品種・少量品のピースピッキングを可能にした3次元画像処理技術をはじめ、AIを活用した積付シミュレーションなどの先進技術を多数導入しています。



ピッキング自動倉庫
ピースピッキングを行うロボットにタイムリーに商品を提供



高能力ケース自動倉庫
ケース単位で出荷される異なるサイズの段ボールケースを保管



ケース積付ロボット
さまざまな荷姿のケースをスピーディーに積付け



ピースピッキングロボット
サイズや重さが異なるピース品をきめ細やかにピッキング

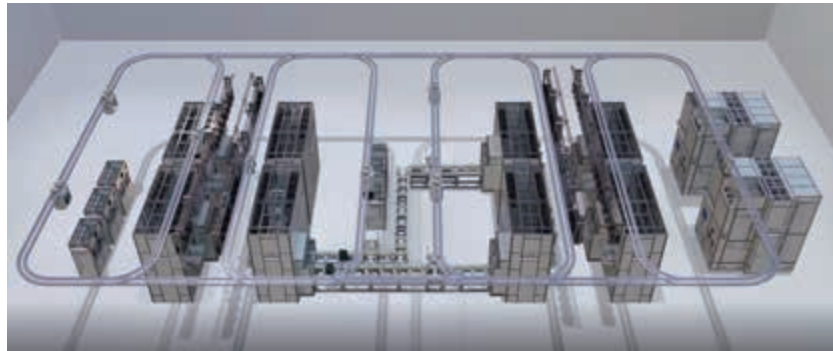


デパレタイジングロボット
自動倉庫から出庫されたパレット上の段ボールケースをピッキング

▶ クリーンルーム

半導体・液晶生産ライン向けシステム

半導体・液晶・有機EL工場にクリーンルーム専用の保管・搬送システムを提供しています。半導体工場では、総延長10kmにおよぶ走行レールが張り巡らされ、数百台を超えるウエハ搬送ビークルが24時間365日稼働しています。



クリーンルーム用搬送システム 「クリーンウェイ」

密閉型カセットに格納したウエハを天井走行台車が数百におよぶ複雑な工程を搬送します。摩耗子が発生しない非接触給電技術を活用しています。



クリーンルーム用保管システム 「クリーンストッカー」

半導体生産工程で、仕掛品を一時保管する自動倉庫。半導体の微細化加工に対応した、ウエハの劣化を防ぐ「窒素パージシステム」も開発しました。

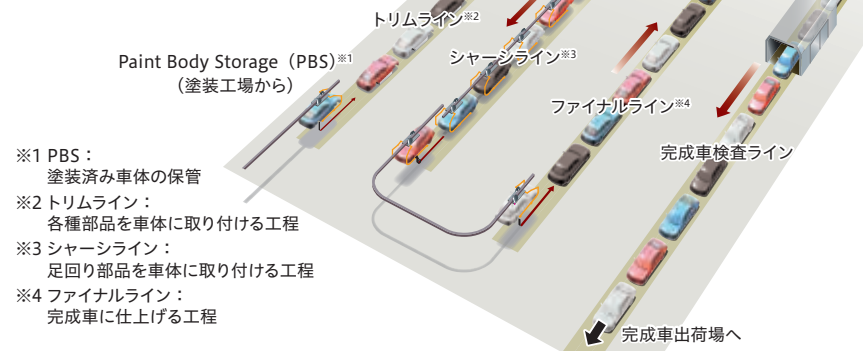


クリーンルーム事業部門サイト(www.daifuku.com/pro/cr/jp)
半導体・液晶生産ライン向けシステムの各種製品・システムの動画を紹介しています。

▶ オートモーティブ

自動車生産ライン向けシステム

プレス・溶接・塗装・組立など自動車生産工程の全域にわたり、自動化・省人化システムを提供しています。



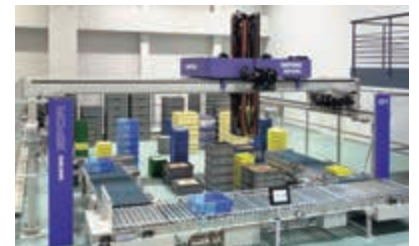
チェンレス搬送システム 「フレキシブルドライブシステム」

低速走行や振動の少ない安定した搬送が可能で、組立・加工ラインなどに最適な搬送システム。



部品物流向け一時保管・仕分けシステム 「SPDR (スパイダー)」

自動車組立用の部品が入った多様な種類のケースの入出庫・仕分けを自動化することができるシステム。生産計画に応じたタイムリーな供給ができます。



生産ライン最適化支援サービス特設サイト(www.daifuku.com/pro/aps/jp)
自動車関連をはじめとする幅広い分野を対象に紹介しています。

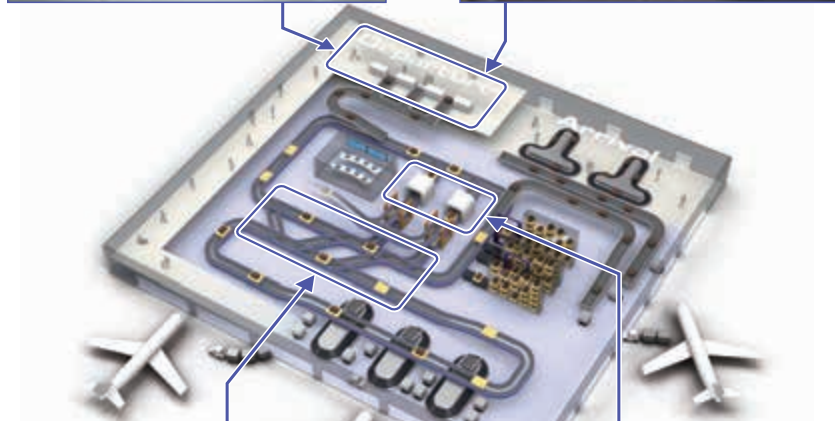
▶ **エアポート**
空港向けシステム

手荷物搬送・仕分けシステムを中心に、セルフ手荷物チェックインシステムやセキュリティシステム、空港内監視システムなどを世界の空港に提供しています。

セルフ手荷物チェックインシステム



空港情報管理システム



手荷物搬送・仕分けシステム



無人搬送式手荷物検査システム

エアポート事業サイト(www.daifukuattec.com) (英文)

▶ **オートウォッシュ**
洗車機・関連商品

洗車機

ガソリンスタンド、カーディーラー、コイン洗車場向けの洗車機。節水・静音タイプの門型洗車機やコンベヤ技術を応用した連続洗車機など豊富なラインアップを揃えています。



大型車両専用洗車機
「カミオン カスタム」

トラックやバスなどの洗車機。センサーの能力向上とブラシの動作最適化により、業界最短の洗車時間(約4分)を実現し、トラックドライバーの作業負担軽減を図ります。



洗車機・関連商品の販売会社 **ダイフクプラスモア**のサイト(www.daifuku-carwash.jp)

▶ **電子機器(株式会社コンテック)**

産業用コンピュータ製品

高い信頼性、耐久性が求められる環境に最適なコンピュータ。FA、製造装置への組み込み、医療・エネルギー分野など、さまざまな業種・業界で活用されています。



IoT 機器製品

計測制御や通信システム構築向けの機器製品。FA、社会インフラ、再生可能エネルギー分野など、多くの産業で使用されています。また、製品の開発技術を生かし、クラウドサービスを含めたソリューションを提案・提供しています。



コンテックサイト(www.contec.com/jp)

▶ 知的財産への投資

サステナビリティアクションプラン(34ページ)では、技術開発と製品・サービスの提供でスマート社会に貢献することをテーマの一つとしています。マテリアリティとしては革新的技術開発、発明促進を特定し、KPIにそれぞれイノベーション投資額[研究開発費+デジタルトランスフォーメーション(DX)投資額]、特許登録件数(累計)を掲げています。

2021年度のイノベーション投資額は130億円でした。2022年3月末時点の特許登録件数(累計)は3,726件です。

▶ ダイフクにおける発明考案の推進

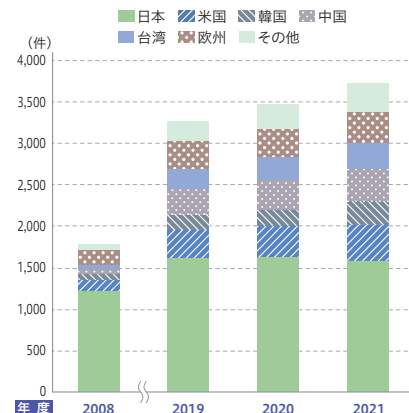
当社では、「発明考案の規程」を定めており、新規開発製品を中心に積極的な特許出願、権利化を図っています。特許は、出願してから登録されるまでに通常4年～6年かかるため、出願特許の中から極めて優秀な発明考案に対して、「ダイフク発明大賞/発明賞」としてタイムリーな表彰を全社的にを行っています。

2021年度は、ダイフク発明大賞に1件、ダイフク発明賞に4件が選定されました。

▶ 海外の特許登録件数

近年は海外への特許出願数も増加傾向にあり、世界30カ国以上で特許を保有しています。特に、中国、韓国、台湾といったアジア圏での特許登録件数が増えています。

地域別特許登録件数推移

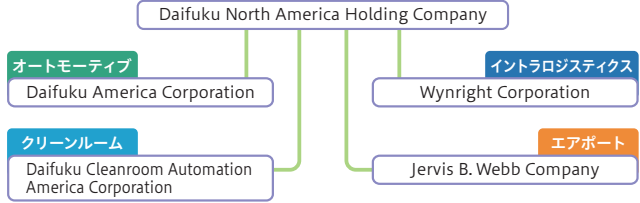


▶ 財務指標

(億円、網かけは過去最高値)

年度	2017	2018	2019	2020	2021
受注高	4,879	5,033	4,831	4,510	5,890
受注残	3,145	3,584	3,979	3,750	4,518
売上高	4,049	4,594	4,436	4,739	5,122
営業利益	399	546	404	445	502
営業利益率(%)	9.9	11.9	9.1	9.4	9.8
経常利益	411	558	409	458	512
親会社株主に帰属する当期純利益	290	395	280	323	358
1株当たり当期純利益(円)	235	314	222	257	284
1株当たり配当金(円)	70	90	75	80	90
総資産	3,730	4,099	4,108	4,454	4,833
純資産	1,914	2,228	2,373	2,620	2,920
ROA(%)	8.6	10.1	6.8	7.6	7.7
ROE(%)	17.7	19.5	12.4	13.2	13.1
自己資本比率(%)	50.4	53.3	56.7	57.7	60.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	114	85	137	382	566
投資活動によるキャッシュ・フロー	-56	59	-147	-61	-98
財務活動によるキャッシュ・フロー	134	-68	-183	-89	-275
フリー・キャッシュ・フロー	58	144	-10	320	468
従業員数(人) (うち、海外現地法人)	9,193 (5,936)	9,857 (6,459)	10,863 (7,312)	11,697 (8,045)	12,436 (8,643)
設備投資額	63	79	132	74	115
減価償却費	44	45	56	64	73
研究開発費	81	86	89	91	107
有利子負債	379	400	334	351	263

セグメント別業績推移

報告セグメント	概要
ダイフク	マテリアルハンドリングシステム・機器、洗濯機などの製造販売の中核
コンテックグループ	産業用パソコン・インターフェイスボードなどの製造販売
DNAHCグループ	北米の事業を統括 
CFI	半導体メーカー向けのクリーンルーム内搬送装置の製造・販売
その他	上記以外の海外および国内子会社

(億円)

年度		2017	2018	2019	2020	2021 [*]
受注高	ダイフク	2,159	2,314	2,183	1,841	2,624
	コンテック	164	163	168	153	196
	DNAHC	1,104	1,094	1,367	1,194	1,351
	CFI	299	417	238	310	367
	その他	1,151	1,051	874	1,010	1,349
	計	4,879	5,033	4,831	4,510	5,890
売上高	ダイフク	1,869	2,025	2,044	1,993	2,250
	コンテック	157	163	163	162	157
	DNAHC	997	971	1,022	1,371	1,404
	CFI	212	342	326	305	286
	その他	853	1,108	939	896	1,048
	連結調整等	—	—	—	—	-25
計	4,049	4,594	4,436	4,739	5,122	
セグメント利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	ダイフク	252	337	186	260	286
	コンテック	9	16	16	11	12
	DNAHC	28	4	62	60	75
	CFI	14	25	25	27	20
	その他	33	57	25	23	37
	連結調整等	—	—	—	—	-73
計	290	395	280	323	358	

※新収益認識に関する会計基準を適用

業種別売上高推移

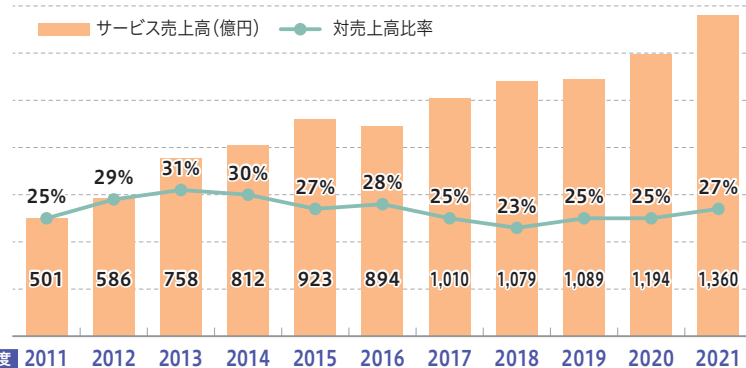
(億円)

業種	年度	2017	2018	2019	2020	2021 [*]
自動車及び自動車部品		735	686	684	801	590
エレクトロニクス		1,455	1,899	1,441	1,370	1,513
商業及び小売業		721	717	862	1,155	1,551
運輸・倉庫		204	290	285	235	328
機械		64	93	135	112	115
化学・薬品		144	141	153	183	176
食品		120	118	131	177	200
鉄鋼・非鉄金属		37	45	53	44	35
精密機器・印刷・事務機		53	64	114	87	62
空港		301	355	419	412	437
その他		209	180	153	158	136
連結調整等		—	—	—	—	-25
合計		4,049	4,594	4,436	4,739	5,122

※新収益認識に関する会計基準を適用

サービス売上高

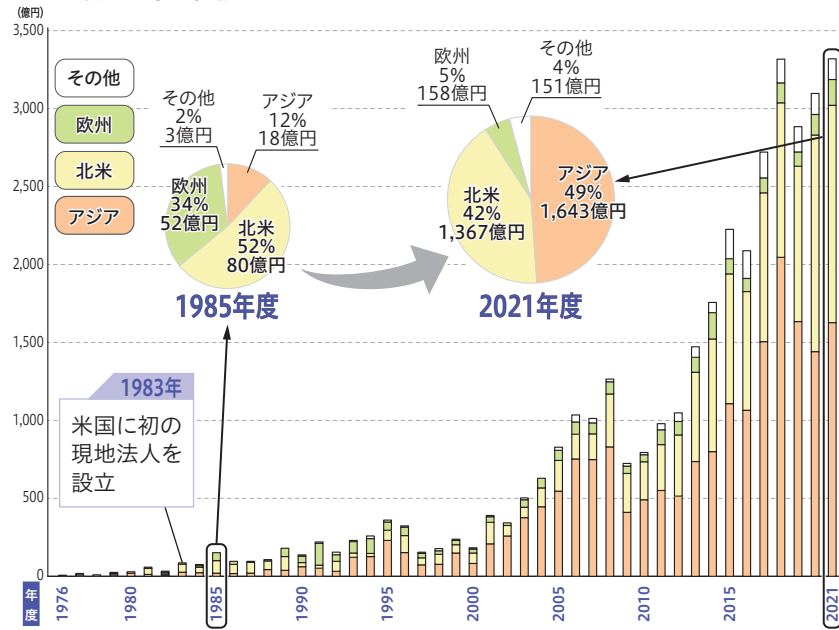
納入したシステム・製品を対象にした保守・メンテナンスなどによる売上高。幅広いサービスメニューを提供しており、安定的な収益につながっています。



アフターサービス

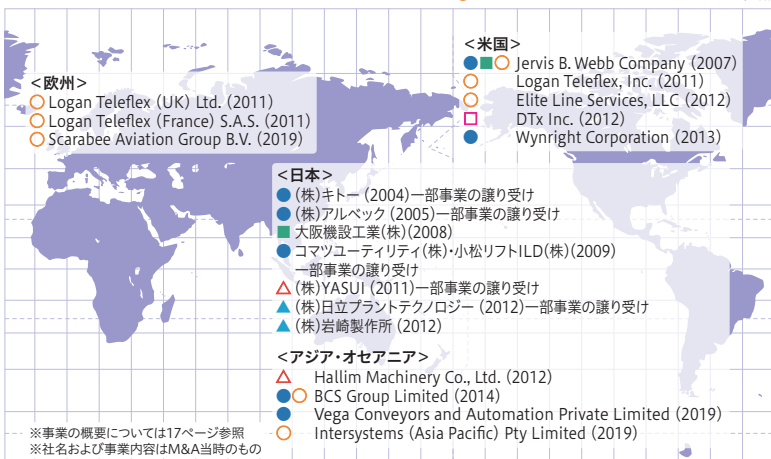
- ・定期点検
- ・システム保守契約
- ・安全技能教育
- ・ファシリティサービス
- ・トラブル対応
- ・パーツ供給
- ・リモートメンテナンス
- ・予知予報システム
- ・オンサイトサービス
- ・改造、リニューアル

▶ 海外売上高推移



▶ M&Aによる事業領域拡大(2000年以降)

●インフラロジスティクス ▲クリーンルーム ■オートモーティブ ○エアポート △オートウォッシュ □電子機器



▶ 地域別売上高推移

● 日本

eコマース向けシステムの需要が拡大しており、大型の案件が増えています。自動車を含む製造業や、流通業への豊富な納入実績があり、サービス売上高比率が高い市場です。

● 北米

1983年に日系自動車メーカーの米国進出に合わせて現地法人を設立し、一般製造業・流通業向けおよび半導体生産ライン向けに事業の幅を広げました。2007年以降はM&Aにより空港向けシステムに進出。今後は、一般製造業・流通業向け、空港向けシステムの売上、収益性の向上を目指します。

● アジア

海外売上高の約50%を占めています。従来は、半導体・液晶生産ライン向け(中国・韓国・台湾など)、自動車生産ライン向け(中国・韓国・タイ・インドネシアなど)が中心でしたが、アジアの経済発展により、今後は一般製造業・流通業向けの需要が期待されています。

● 欧州

一般製造業・流通業向けシステム、空港向けシステムの保守、メンテナンスサービスなどを行っています。

● 中南米

自動車生産ライン向けシステムが中心です。

(億円)

地域	年度	2017	2018	2019	2020	2021*	
日本		1,324	1,276	1,550	1,639	1,827	
海外		2,724	3,318	2,886	3,099	3,320	
北米		955	991	996	1,389	1,367	
		1,505	2,046	1,634	1,440	1,643	
	ア ジ ア	中国	725	1,113	702	595	572
		韓国	508	567	435	433	465
		台湾	155	211	371	305	490
その他	115	153	125	104	114		
欧州		96	128	92	133	158	
中南米		61	60	62	41	52	
その他		106	92	99	93	99	
連結調整等		—	—	—	—	-25	
合計		4,049	4,594	4,436	4,739	5,122	
海外売上高比率		67%	72%	65%	65%	65%	

※新収益認識に関する会計基準を適用

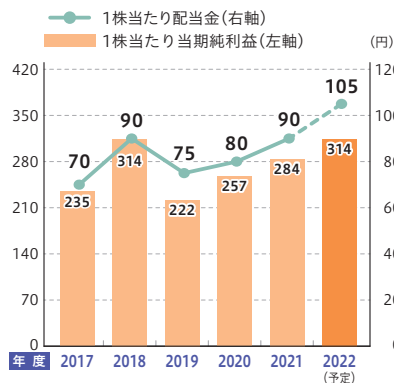
東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383)

単元株数:100株

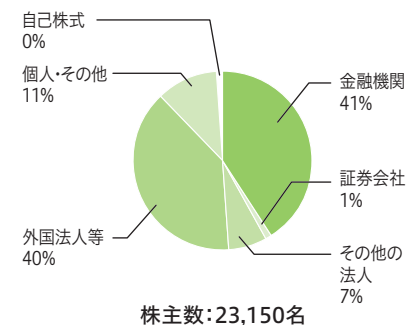
(円)

年度	2017	2018	2019	2020	2021
1株当たり当期純利益	235	314	222	257	284
1株当たり純資産	1,493	1,738	1,850	2,040	2,307
株価純資産倍率(倍)	4.3	3.3	3.7	5.3	3.8
株価収益率(倍)	27.0	18.3	30.7	42.2	30.9
1株当たり配当金	70	90	75	80	90
配当性向(%)	30	29	34	31	32
期末株価	6,370	5,760	6,850	10,840	8,790
株主総利回り [※] (%)	232.1	213.3	255.3	402.0	331.4
TOPIX(配当込み)	115.9	111.0	99.6	141.5	144.3
期末時価総額(億円)	8,065	7,292	8,672	13,724	11,129
期末発行済株式数(株)	126,610,077	126,610,077	126,610,077	126,610,077	126,610,077
資本金(億円)	318	318	318	318	318

※2016年度末を基準として算出



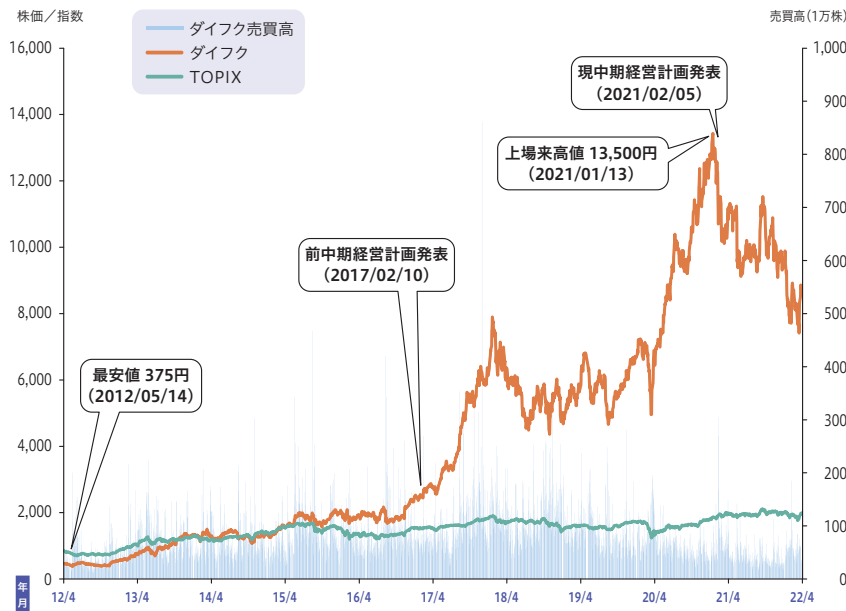
所有者別分布状況 (2022年3月31日現在)



▶ 利益配分に関する基本方針

ダイフクは、株主の皆さまに対する利益還元を最重要課題と位置づけています。現中期経営計画「Value Transformation 2023」では、2021~2023年度の3カ年平均で連結配当性向30%以上を目指します。

▶ 過去10年間の株価推移

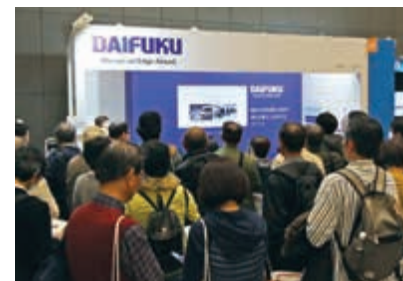


▶ IRイベント

ダイフクはIR活動の一環として「株主さま日に新館見学会」の開催やIRフェアへの出展を行っています。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。



株主さま日に新館見学会



東証IRフェスタ2019

▶ 持続可能な社会に向けて

当社は、持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指すため、事業活動を通じて取り組むべき当社グループのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。SDGsが掲げる17の目標のうち、特に「8. 働きがいも 経済成長も」「12. つくる責任 つかう責任」との関連性が高くなっています。また、重点的に取り組む5つのテーマのもと「サステナビリティアクションプラン(2021~2023年度)」を策定しています。

ダイフクが取り組む5つのテーマと18のマテリアリティ

テーマ	関連するSDGs	マテリアリティ
スマート社会への貢献	8 働きがいも 経済成長も 9 産業と資源効率の 改善をつつこう	・革新的技術開発、発明促進 ・新規領域の創出 ・スマート・ロジスティクスによる お客さまニーズへの対応
製品・サービス品質の維持向上	8 働きがいも 経済成長も 12 つくる責任 つかう責任	・グローバル化による生産の最適地化 ・製品品質、製品安全の追求
経営基盤の強化	8 働きがいも 経済成長も 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を 16 平和と公正を すすめるために 17 パートナリシップ 持続可能な社会を 築こう	・ガバナンスの強化 ・コンプライアンスの徹底 ・リスクマネジメント ・サプライチェーンでの責任ある調達 ・情報セキュリティの強化 ・透明性の高い情報開示と戦略的な コミュニケーションの実践
人間尊重	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 10 人や国が平等 なるように	・労働安全衛生の徹底 ・ダイバーシティ&インクルージョン ・働きがいのある職場環境の整備 ・人財の育成 ・人権配慮
事業を通じた環境貢献	6 安全な水とトイレを 世界中に 7 エネルギーを たくわえ、クリーンに 変えよう 9 産業と資源効率の 改善をつつこう 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を	・事業運営における環境配慮 ・環境配慮製品・サービスの拡充

「サステナビリティアクションプラン」の詳細はこちら
www.daifuku.com/jp/sustainability/management/plan



▶ ダイフク環境ビジョン2050

当社は、2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を目指す」を掲げ、2030年までの重点領域と目標を設定しています。



<2030年までの重点領域と目標>

気候変動・エネルギー対策の加速

製品稼働におけるエネルギー削減やサプライヤーとの連携により、バリューチェーンでのCO₂削減に取り組めます。

グループ全体での省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入により、パリ協定に準じたCO₂削減に取り組めます。

- ・環境貢献物件^{※1} 売上高比率70%以上
- ・CO₂削減貢献量^{※2} 累計30万トン以上
- ・自社CO₂排出総量削減25%以上(2018年度比)
- ・サプライチェーンCO₂削減プログラム参加企業率50%以上

資源循環の促進に向けた基盤整備

ライフサイクルを通じた資源循環を進めるため、製品のリサイクル可能率を高めます。すべての生産拠点において資源循環の仕組みを構築します。

- ・新製品のリサイクル可能率90%以上
- ・グローバル生産拠点での資源循環^{※3}

※1 当社エコプロダクツ(36ページ)などを通じて、お客さまに納入したシステムで環境面から貢献したものを。
 ※2 お客さまに納入した製品・サービスから排出されるCO₂排出量を、基準年度である2011年時点の製品・サービスによるCO₂排出量から差し引いたもの。
 ※3 生産拠点における資源循環の実態を把握した上で目標を設定し、2022年度中に開示予定。

▶ 環境貢献

ダイフクエコプロダクツ(環境配慮型製品)

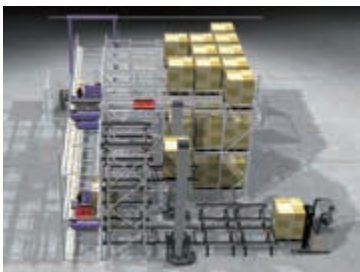
2012年11月にダイフクエコプロダクツ制度を設けました。これは、当社独自の基準により、製品の環境性能を評価・認定する制度です。当社グループの全製品を対象に、省エネルギー・省資源・公害防止の観点から9つの項目についての性能とLCA^{*}の結果を評価しています。2022年5月現在、77製品を認定済みです。

※ LCA: Life Cycle Assessment



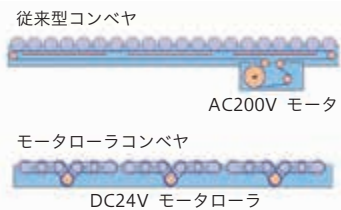
製品環境性能評価の結果、社内基準をクリアした製品

**超高密度パレット自動倉庫
「シャトルラックD³ (ディースリー)」**
少品種多量保管に適した自動倉庫。走行部を軽量化し、消費電力を軽減。



モーターラコンベヤ

高性能モータを内蔵し、搬送時に必要な場所だけ駆動するコンベヤ。従来製品と比較して生産性を大幅に向上させるとともに消費電力を約20%削減。



「DAIFUKU エコアクション」制度(2012年度～)

従業員の環境活動に対してエコポイントを付与する制度です。付与したエコポイントに応じた金額を外部団体へ寄付します。2021年度は311万円寄付しました。従業員は獲得したポイント相当のエコ商品に交換できます。

	2020年度	2021年度
エコポイント(累計)	41,108ポイント	57,395ポイント
延べ参加人数	7,122名	11,608名

エコアクションイベント(一例)

メニュー	内容・目的
エコフィールドレポート	自然公園、環境施設などでの体験を通じて環境を学習
外来魚釣り大会	琵琶湖の生態系を守るため、外来魚を駆除
打ち水大作戦	都市部のヒートアイランド対策

生物多様性保全活動「結びプロジェクト」



水質浄化に役立つヨシ刈り活動など、環境貢献活動に多くの従業員が参加
(滋賀県内の伊庭内湖、西の湖で実施)

—— 社外評価 ——

環境省「モニタリングサイト1000」に登録

環境省が生物多様性の重要地域を認定し、5年間のモニタリングデータを共有する取り組み「モニタリングサイト1000」に滋賀事業所が2018年4月に登録されました。

「しが生物多様性取組認証制度」で「3つ星」を取得

滋賀県内に事業所を置く企業・団体が実施する生物多様性保全活動の取り組みを滋賀県知事が認証する制度で、当社が最高ランクの「3つ星」を取得しました。



滋賀事業所には約50種類の希少種が生息
(写真左:ヤマトサンショウウオ、写真右:ハヤブサ)

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/action/environment/product

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/environmental-management

▶ 安全

“安全はすべてに優先する”をスローガンに掲げ、社長直轄の安全衛生管理本部主導のもと、安全意識の向上に取り組んでいます。

- ・安全パトロールの実施
- ・安全体感道場の運営
- ・主要サプライヤー向け安全衛生トップセミナー開催等



社長による現場安全パトロール

▶ 人材育成

人材育成を効果的に推進するため、グループ全体の人材育成方針を策定し、体系的かつ重点的な施策を展開しています。特に、事業のグローバル展開を支える人材の育成、マネジメントの強化を進めています。

- ・階層別研修
- ・キャリア開発研修
- ・グローバル人材育成制度
- ・選抜型研修
- ・海外従業員向け研修等

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/action/human-dignity/human-resources

▶ 健康

全社横断組織である「こころと体の健康づくり委員会」が健康課題の特定・目標設定や、各種健康イベント、外部講師による講演会、研修を実施しています。

- ・ラインケア／セルフケアセミナー
- ・職場でエクササイズ
- ・運動セミナー
- ・ウォーキングイベント等



滋賀事業所内の遊歩道を活用したランチウォーキング

▶ 人権方針

2021年10月に「ダイフクグループ人権方針」を策定しました。当社グループは、経営理念並びにグループ行動規範において「人権の尊重」をうたい、一人ひとりが自らの力を最大限発揮できる環境づくりに努めてきました。本方針に対する社員およびすべてのビジネスパートナーの皆さまのご理解と実践を通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/action/human-dignity/human-rights

▶ ダイバーシティ&インクルージョン

当社は、経営理念に基づいた多様な人材の雇用と従業員の一人ひとりが「働きがい」と「働きやすさ」を感じ、いきいきと仕事ができる環境の整備を推進しています。

女性活躍

女性活躍推進に積極的に取り組むため、子育てと仕事の両立を図りながら能力を十分に発揮して成長することができる支援制度の拡充を行っています。今後は女性の管理職登用の取り組みをより強化していきます。

障がい者雇用機会の創出

当社は、法定の障がい者雇用率2.3%に対し、2.46%を達成しています(2022年4月1日現在)。マザー工場である滋賀事業所では、製造現場における障がい者雇用を促進するため、専門の部署を設置しています。県内の高等養護学校などと提携し、職場実習の受け入れや定期採用を行っています。また、当社独自の「採用前実習→会社適応→職場実習→職場適応」というステップを踏むカリキュラムを実施し、安心して働ける体制を構築しました。近年はデジタル化により、職域拡大が進んでおり、製造現場での業務だけではなく、設計や管理などの事務的な業務に就くケースも増えてきています。



支援担当社員による組立指導

ダイフクグループのウェブサイト
財務・非財務情報を公開しています。(下表)
www.daifuku.com/jp

IR情報

www.daifuku.com/jp/ir

コーポレートガバナンス

www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance

サステナビリティ

www.daifuku.com/jp/sustainability



区分	名称	言語	
		日	英
IR情報	決算短信／決算説明会資料	✓	✓
	有価証券報告書	✓	(2022年開示予定)
	株主総会招集通知	✓	✓
	株主通信	✓	
	Daifuku Report (統合報告書)	✓	✓
コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス報告書	✓	✓
	ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針	✓	✓
	コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況	✓	✓
会社情報	会社案内	✓	✓
サステナビリティ	サステナビリティ情報	✓	✓
	ESGデータ、環境パフォーマンス、外部評価	✓	✓
	サステナビリティ報告	✓	✓

株主総会招集通知



Daifuku Report



サステナビリティ報告

社会・環境への活動や取り組みを掲載した「サステナビリティサイト」の内容をPDF版でまとめています。
(www.daifuku.com/jp/sustainability/report)



基本的な考え方

ダイフクグループは、監査役会設置会社という基本構造のもと、経営の透明性、経営監視・監督機能を高める制度の導入や拡充を機動的に進めています。コーポレートガバナンス・コードを踏まえた「ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針」および「コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況」を制定し、PDCAのサイクルを回して実効性を継続的に高めています。

「ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針」および「コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況」
(www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance)

コーポレートガバナンス体制の概要 (2022年6月24日現在)

組織形態	監査役会設置会社
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	代表取締役社長(CEO)
取締役の人数	9名(内、社外4名)
取締役会開催回数(2021年度)	定例12回、臨時6回
任意の委員会の有無	有り(指名、報酬に係る諮問委員会)
諮問委員会の構成員・議長	構成員:代表取締役1名以上、社外取締役1名以上を含めた3名以上 議長:社外取締役 回数:年3回以上
監査役的人数	4名(内、社外3名)
監査役会開催回数(2021年度)	8回
社外取締役および社外監査役の独立性判断基準	当社の基準を定め、株主総会招集通知などで開示しています。
取締役会の実効性評価	取締役・監査役へのアンケート調査を外部機関に委託。概要をコーポレートガバナンス報告書などで開示しています。
中長期業績に連動する取締役報酬	業績連動型の株式報酬制度である株式給付信託(BBT: Board Benefit Trust)を導入しています。

▶ 社外取締役



取締役
お ざわ よし あき
小 澤 義 昭

重要な兼職
桃山学院大学経営学部教授
大同生命保険株式会社
社外監査役
株式会社アンデレパートナーズ
代表取締役



取締役
さか い みね お
酒 井 峰 夫



取締役
か とう かく
加 藤 格

重要な兼職
立教大学法学部客員教授



取締役
かね こ けい こ
金 子 圭 子

重要な兼職
アンダーソン・毛利・友常
法律事務所外国法共同事業
パートナー
株式会社ファーストリテイリ
ング社外監査役
株式会社ユニクロ監査役
株式会社朝日新聞社
社外監査役

▶ 監査役



常勤監査役
さい とう つかさ
齊 藤 司



社外監査役
あい ほう りょう すけ
相 原 亮 介

重要な兼職
相原法律事務所弁護士



社外監査役
みや しま つかさ
宮 島 司

重要な兼職
朝日大学法学部・
大学院法学研究科教授
独立行政法人鉄道建設・
運輸施設整備支援機構
資産処分審議会会長
ヒューリック株式会社
社外取締役
大日本印刷株式会社
社外取締役
株式会社ミクニ社外監査役



社外監査役
わ だ のぶ お
和 田 信 雄

▶ 取締役会の構成

当社は、経営環境の変化や当社グループの経営計画等に基づき、取締役会の多様性について継続的に検討していきます。

取締役会のスキル・マトリックス

	専門性・経験						多様性				
	企業経営	テクノロジー	財務・会計	法務・リスクマネジメント	営業・マーケティング	グローバル	ESG	独立性	性別	年齢	主な経歴
下代博	●			●	●	●	●		男性	64	当社グループ
本田修一	●		●	●		●	●		男性	65	当社グループ・銀行
佐藤誠治	●				●	●			男性	62	当社グループ
林智亮	●	●				●			男性	63	当社グループ
信田浩志	●	●				●			男性	62	当社グループ
小澤義昭			●			●	●	✓	男性	68	会計事務所・大学・企業社外監査役および補欠取締役（監査等委員）
酒井峰夫	●		●			●	●	✓	男性	71	商社・IT企業
加藤格	●			●		●	●	✓	男性	67	商社・エネルギー開発企業・大学
金子圭子				●		●	●	✓	女性	54	商社・大学・法律事務所・企業監査役および社外取締役

※各人の有するスキルのうち主なもの最大5つに「●」印をつけています。

※上記一覧表は、各人の有するすべての知識・経験・能力を表すものではありません。

▶ 常務執行役員

岸田 明彦	大福(中国)有限公司董事長
堀場 義行	オートウォッシュ事業部門長 オートウォッシュ事業部長 株式会社ダイフクプラスモア代表取締役社長
上本 貴也	オートモーティブ・エアポート事業部門副事業部門長 エアポート事業部長
三品 康久	生産担当 DX本部長 イントラロジスティクス事業部生産本部長
田久保 秀明	コーポレート部門長 人事総務本部長
権藤 卓也	先端技術・新規事業開発担当 イントラロジスティクス事業部エンジニアリング本部長

▶ 執行役員

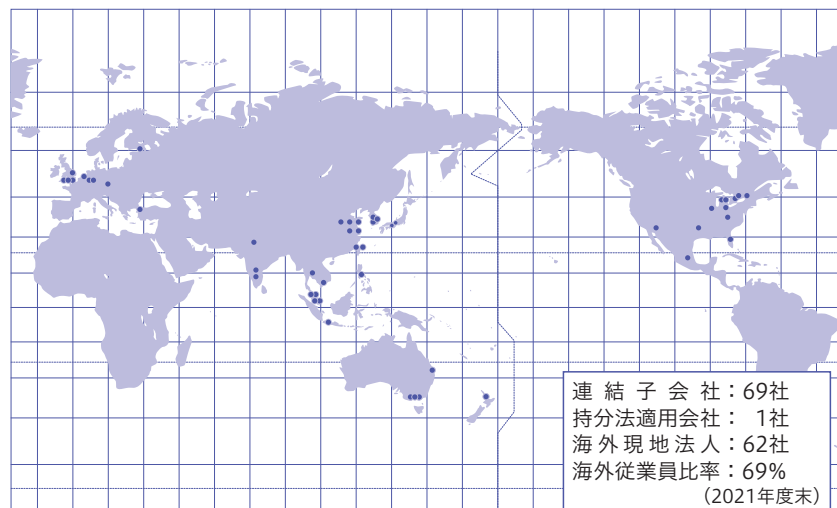
西村 章彦	オートモーティブ・エアポート事業部門副事業部門長 オートモーティブ事業部長 オートモーティブ事業部営業・サービス統括本部長
喜多 浩明	安全衛生管理本部長
鳥谷 則仁	イントラロジスティクス事業部営業本部長
日比 徹也	コーポレート部門副部門長 経本部長
山本 誠二	イントラロジスティクス事業部工事・サービス本部長
前田 勉	オートモーティブ事業部国内市場BU [※] 本部長 オートモーティブ事業部グローバル生産本部長
寺井 友章	クリーンルーム事業部生産本部長
園田 篤	クリーンルーム事業部営業本部長 小牧事業所長

※ BU = Business Unit

▶ 監査役員

高橋 利勝	監査役室長
-------	-------

26の国と地域で事業を展開



ダイフクの生産拠点



主要事業所

本 社

〒555-0012
 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11
 TEL:06-6472-1261(代)

東京本社

〒105-0022
 東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング
 TEL:03-6721-3501(代)

滋賀事業所

〒529-1692
 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
 TEL:0748-53-0321(代)

小牧事業所

〒485-8653
 愛知県小牧市小牧原4-103
 TEL:0568-74-1500(代)

営業・サービス拠点 全国約60カ所

海外支店

チェコ支店
 ドイツ支店
 フィリピン支店

サントペテルブルク支店
 イスタンブール支店
 イギリス支店

国内子会社

株式会社コンテック
 株式会社ダイフクプラスモア
 株式会社ダイフクビジネスサービス
 株式会社ダイフク・マニュファクチャ
 リング・テクノロジー

株式会社岩崎製作所
 Daifuku Airport Technologies Japan
 株式会社
 株式会社スカラベアーアビエーション
 グループ・ジャパン

北中米

Daifuku North America Holding Company
Novi, MI, U.S.A.

Daifuku America Corporation

- **Main Office & Plant**
Reynoldsburg, OH, U.S.A.
- **Carlisle Forging Plant**
South Carolina
- **Other offices**
Indiana, Kentucky, Michigan, Tennessee

Daifuku Cleanroom Automation America Corporation

- **Main Office:** Chandler, AZ, U.S.A.
- **Test Center & Office:** Oregon
- **Other Office:** Texas

Jervis B. Webb Company

- **World Headquarters:** Novi, MI, U.S.A.
- **Boyne City Manufacturing Plant**
Michigan
- **Harbor Springs Manufacturing Plant**
Michigan

Elite Line Services, Inc.

Carrollton, TX, U.S.A.

Wynright Corporation

- **World Headquarters**
Hobart, IN, U.S.A.
- **Innovation Center:** Illinois
- **Other offices**
Florida, Indiana, Kentucky
Michigan, Utah
- **Other plant:** Texas

Contec Americas Inc.

- **Main Office:** Melbourne, FL, U.S.A.
- **Other Office:** Illinois

Daifuku Canada Inc.

Mississauga, Ontario, Canada

Jervis B. Webb Company of Canada, Ltd.

Hamilton, Ontario, Canada

Daifuku Airport Technologies Canada Inc.

Montréal, QC, Canada

Elite Line Services Ltd.

Toronto, Ontario, Canada

Daifuku de México, S.A. de C.V.

Querétaro, Qro., México

欧州

Daifuku Europe Ltd.

Milton Keynes, U.K.

Daifuku Europe GmbH

- **Main Office**
Moenchengladbach, Germany
- **Denmark Branch:** Copenhagen, Denmark
- **Sweden Branch:** Helsingborg, Sweden
- **UK Branch:** Milton Keynes, U.K.

Jervis B. Webb Company, Ltd.

Milton Keynes, U.K.

Daifuku Logan Ltd.

- **Main Office:** Hull, U.K.
- **France Branch:** Alfortville, France

Scarabee Aviation Group B.V.

Hoofddorp, The Netherlands

アジア・オセアニア

BCS Airport Systems Pty Limited

Hallam, VIC, Australia

BCS Logistics Solutions Pty Limited

Hallam, VIC, Australia

BCS Infrastructure Support Pty Limited

Hallam, VIC, Australia

Intersystems (Asia Pacific) Pty Limited

Murrarie, QLD, Australia

大福 (中国) 有限公司

中国・上海

大福 (中国) 自動化設備有限公司

- **本社:** 中国・江蘇省常熟
- **分公司:** 北京、長春、重慶、広州、上海、天津、武漢
- **事務所**
常熟沿江、福州、南沙、泰達、鄭州

大福 (中国) 物流設備有限公司

- **本社:** 中国・上海松江
- **分公司:** 北京、広州、深圳
- **事務所:** 長沙、成都、重慶、杭州、虹橋、南京、寧波、蘇州、太倉、天津、武漢、西安

大福自動搬送設備 (蘇州) 有限公司

- **本社:** 中国・江蘇省蘇州
- **分公司:** 深圳

康泰克 (上海) 信息科技有限公司

- **本社:** 中国・上海
- **分公司:** 北京

Daifuku India Private Limited

- **Main Office:** Haryana
- **Other Office:** Bengaluru, Gujarat

ForgePro India Private Limited

Karnataka, India

Vega Conveyors and Automation Private Limited

- **Main Office:** Hyderabad, India
- **Other Office:** Mumbai

P.T. Daifuku Indonesia

- **Main Office:** Jakarta, Indonesia
- **Deltamas Office:** Bekasi

Daifuku Korea Co., Ltd.

- **Main Office / R&D Center**
Incheon, Korea
- **Plant:** Incheon

Clean Factomation, Inc.

- **Main Office**
Gyeonggi-do, Korea
- **Asan Plant**
Chungcheongnam-do, Korea

Hallim Machinery Co., Ltd.

- **Main Office**
Gyeonggi-do, Korea
- **Other Office**
Busan, Daegu, Daejeon, Gwangju, Seoul

Daifuku (Malaysia) Sdn. Bhd.

Selangor D.E., Malaysia

BCS Integration Solutions Sdn. Bhd.

- **Main Office**
Kuala Lumpur, Malaysia
- **Factory**
Negeri Sembilan, Malaysia

Daifuku Oceania Limited

- **Main Office:** Auckland, NZ
- **Other Office**
Australia, Canada, Malaysia

Daifuku Mechatronics (Singapore) Pte. Ltd.

Techplace 1, Singapore

Singapore Contec Pte. Ltd.

Techplace 1, Singapore

台灣大福高科技設備股份有限公司

- **本社・工場:** 台湾・台南
- **支社:** 新竹
- **工場:** 台中

台灣康泰克股份有限公司

台湾・新北

Daifuku (Thailand) Limited

- **Main Office & Plant (Pinthong)**
Chonburi, Thailand
- **Other office:** Bangkok
- **Chonburi Plant:** Chonburi

Daifuku Intralogistics Vietnam Company Limited

- **Main Office:** Ho Chi Minh City, Vietnam
- **Other Office:** Hanoi

マテハン業界誌

月刊マテリアル・フロー	mf-p.jp
月刊ロジスティクス・ビジネス	www.logi-biz.com
Modern Materials Handling (米国マテリアルハンドリング誌)	www.mmh.com
ダイフクが加入する主な団体	
日本物流システム機器協会 (JIMH)	www.jimh.or.jp
日本ロジスティクスシステム協会 (JILS) ・年に一度「物流システム機器生産出荷統計」 を調査・公表しています。 (本統計は、輸入品やサービスを含みません)	www.logistics.or.jp

世界のマテリアルハンドリングシステム サプライヤー トップ20

2021年 順位	会社名 ()内は親会社	2021年売上高 (100万 USドル)	本社所在地
1	ダイフク	4,390	日本
2	Dematic (KION Group)	4,299	米国(ドイツ)
3	SSI Schaefer Group	3,732	ドイツ
4	Honeywell Intelligrated	2,940	米国
5	Vanderlande (豊田自動織機)	2,600	オランダ(日本)
6	Knapp	1,840	オーストリア
7	村田機械	1,780	日本
8	Material Handling Systems	1,500	米国
9	WITRON Integrated Logistics	1,242	ドイツ
10	Interlake Mecalux (MECALUX)	1,177	米国(スペイン)
11	Beumer Group	1,120	ドイツ
12	Siemens Logistics	1,000	ドイツ
13	TGW Logistics Group	924	オーストリア
14	Swisslog (KUKA Robotics)	737	スイス(ドイツ)
15	Fives Intralogistics (Five Group)	664	日本(フランス)
16	Kardex	514	スイス
17	Bastian Solutions (豊田自動織機)	426	米国(日本)
18	Elettric 80	372	イタリア
19	AutoStore	327	ノルウェー
20	System Logistics	322	イタリア

出典：米国 Modern Materials Handling 誌

世界最大級のマテハン・ロジスティクス体験型総合展示場「日に新た館」。自社で開発・製造した最先端のマテハンシステムのほか、ロジスティクス関連企業の製品も展示しています。

1994年に開館。これまで、世界約90の国と地域から延べ約50万人のお客さまにご来館いただいています。このたび、最新システム・機器の大規模な入れ替えを行い、2022年6月にリニューアルオープンしました。

専任スタッフが製品の機能・特長のほか、納入事例や現場での活用方法などをご紹介いたします(日本語、英語、中国語、韓国語に対応)。

日に新た館

〒529-1692
滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
ダイフク滋賀事業所内

アクセス

JR米原駅、JR近江八幡駅から
シャトルバス(要予約)



施設概要

- ・建物面積 6,049m²
- ・延べ床面積 1万9,482m²
- ・開館日 月～金曜日(祝祭日を除く)
- ・開館時間 AM9:00～PM5:00
※開館日、開館時間は変更になる場合があります。
- ・お申込み ウェブサイトをご利用ください(完全予約制)。
www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan
※会社・団体を対象とした展示場のため、個人、同業者の
来館はご遠慮いただいています。

